

海外移住 資料館 だより

Japanese Overseas Migration Museum News No.47

2017
Autumn

日本人の海外移住は100年以上の歴史があります。

JICA横浜 海外移住資料館では、海外へ移住し、それぞれの国や地域で新しい文明作りに参加してきた日本人移住者の歴史と、その子孫である日系人について広く理解を深めてもらうことを目的に、さまざまな資料を展示しています。

■発行元：JICA横浜 海外移住資料館
神奈川県横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜2階
Tel:045-663-3257(代) URL:<http://www.jomm.jp/>
■編集発行人：JICA横浜 海外移住資料館 館長 朝熊由美子

日本人メキシコ移住120周年記念企画展示

メヒコの心に生きた移民たち



日墨協働会社理事長の照井亮次郎(前列右)と家族らアウロラ小学校の農場にて(1913年頃)

出典:荻野正蔵「海を越えて五百年」



日系人の理髪店(1925年頃)

出典:荻野正蔵「海を越えて五百年」



日本メキシコ学院を訪問した田中角栄首相(1974年)
写真提供:日本メキシコ学院

日本人メキシコ移住120周年記念企画展示

メヒコの心に生きた移民たち

9月30日(土)～12月24日(日)

120年前の1897年5月、メキシコ・チアパス州に34人の日本人が上陸しました。これが日本人のメキシコ移住の始まりとされ、榎本武揚によって推進されたことから、「榎本殖民団」と呼ばれました。

当資料館では、2016年10月にメキシコシティに設立された「日本人メキシコ移住あかね記念館」の協力のもと、メキシコへの日本人移住の歴史を紹介する日本人メキシコ移住120周年記念企画展示「メヒコの心に生きた移民たち」を9月30日(土)から12月24日(日)まで開催します。

同時に、1888年に日本とメキシコの間で結ばれた日墨修好通商条約の「批准書」(外務省外交史料館所蔵)や、メキシコで編さんされ、日本で最初に出版されたローマ字表記のスペイン語辞書「西日辞典」(東京外国語大学附属図書館所蔵)など貴重な資料を展示します。



日墨修好通商条約批准書
(外務省外交史料館所蔵)



メキシコはスペイン語で
“メヒコ”っていうの！
漢字では「墨西哥」って
書くのよ。



メキシコ交流のきっかけ「金星観測団」が横浜へ

1874年12月9日、太陽と金星、地球が一直線に並ぶ、「金星の太陽面経過」という天文現象が105年ぶりにありました。この観測は世界75カ所の地点で行われましたが、なかでも日本は最適な観測地とされ、アメリカやフランスから観測団が来日し、国内の観測地点として最も良いとされていた長崎、神戸へ観測所を設けました。

メキシコからも観測団が来日しましたが、横浜に着いたのは観測日までわずか1カ月しかない11月8日でした。長崎や神戸へ移動す

るには、準備が間に合わなかったため、横浜に観測所を設けることにしました。後にそれが幸いし、当日、横浜は雲ひとつない快晴で、長崎と神戸は晴れのち曇りだったとされています。



メキシコ隊の観測100周年を記念して建てられた
「金星太陽面経過観測記念碑」
(横浜市 紅葉坂)

平等条約の締結

メキシコ金星観測団の団長だったフランシスコ・ディアス・コバルピアスは観測を終えた後、日本各地を旅行し、帰国後に「メキシコ天体観測団日本旅行記」をまとめ、その中で日本政府の格別の配慮に触れ、日本との国交樹立の必要性を提言。これが、日墨修好通商条約締結の布石となりました。

1888年11月30日に締結されたこの条約は、日本が開国後、最初に結んだ平等条約です。

当時の日本政府は、欧米諸国との間に結ばれた不平等条約に苦しめられていました。それは、外国人に対する裁判権がなく、関税自主権もない不利なものでした。メキシコとの平等条約締結は、それまで不平等を強いられてきた国々との関係を改める原動力となりました。1889年2月にアメリカがそれまでの条約の改正に調印すると、6月にドイツ、8月にロシアが続きました。

メキシコ移住の第一歩 榎本殖民団

日本からメキシコへの最初の移住は、1897年5月19日、メキシコ南部のチアパス州エスクイントラへの集団移住です。戊辰戦争で旧幕府軍を率いて敗れながら、明治政府で外務大臣などの要職を務めた榎本武揚が設立した殖民協会が実施したもので、「榎本殖民団」と呼ばれました。

海外殖民への関心を抱いていた榎本は、南洋諸島やマレー半島への調査をおこなっていたところ、在サンフランシスコ領事館を通じて、メキシコ政府が移民を歓迎していることを知り、1891年、中南米初の領事館をメキシコに置きました。同年派遣した調査団から、メキシコ政府がチアパス州をコーヒー栽培に適していると推薦してきたとの情報を得て、榎本は1893年に殖民協会を設立し、メキシコへの移民送り出しを計画しました。

1897年3月24日、16歳から48歳までの青年36人がメキシコへ向けて横浜を出発しました。内訳は契約移民29人、自費で渡航した自由移民6人と移民監督でした。*

殖民団は5月10日にチアパス州のサン・ベニート港(現プエルト・

マデロ)に到着。エスクイントラに着いたのは5月19日で、この日を「殖民地創始の記念日」と決めました。

殖民団が到着した時期は雨季だったため、マラリアなどの風土病が広まっていた、苦勞を強いられました。契約移民たちは、給料の増額や待遇改善を訴えましたが聞き入れられず、メキシコに着いてから2カ月もたたないうちに、10人が逃亡、1年後にはさらに3人が逃亡してしまいました。

日本からの送金もすぐに途絶え、榎本も「各自勝手な職に就くべし」と非情な対応を取り、1901年には殖民地は譲渡され、榎本殖民地は崩壊してしまいました。

※航海中に一人はサンフランシスコで下船し、一人はアカプルコで病死したため、現地に到着できたのは34人だった。



1968年にアカコヤグアに建立された榎本殖民記念碑
(出典：荻野正蔵「海を越えて五百年」)

地域に貢献した日墨協働会社

榎本殖民団の人々はその後、日本へ帰国したり、アメリカへ渡ったりしましたが、15人がメキシコに残りました。

1901年、チアパスに残った人たちは、旧榎本殖民地近くのアカコヤグアで組合を結成しました。組合は奥州(東北地方)出身の照井亮次郎、高橋熊太郎、清野三郎と、三河(愛知県東部地方)出身の有馬六太郎が中心となっていたため、三河と奥州の頭文字をとって「三奥組合」と名付けられました。

三奥組合は、組合員の財産を供出して、すべて平等に分配するというもので、個人の私有財産を認めない一方、出資金に対しては年6分の利子を払いました。

その後、1905年にメキシコの商法に基づいて日墨協働会社となり、エスクイントラに本社を置いて活動しました。

名称や組織が変わっても、私有財産の禁止という三奥組合の基本精神は受け継がれ、さらに「日墨融合」の理念が新しく掲げられました。これは「生まれ故郷の日本を母とし、育てられた生活の場であるメヒコ(メキシコ)を父とし、日本とメヒコの両国を祖国」と定めたものでした。

会社は順調に発展を遂げ、その規模は南北アメリカ大陸の日本人移住者の中で最大級となり、理事長には照井亮次郎が就任しました。

メキシコへ渡った初期移民の姿を描いた「漫画 メキシコ榎本殖民史 サムライたちのメキシコ」は、海外移住資料館に併設の図書資料室で閲覧できます。



発行 京都国際マンガミュージアム

同社は単に利益をあげただけでなく、会社創設当初から教育資金を積み立て、1905年にアメリカ大陸で初の日本人学校となる「アウロラ(スペイン語で暁の意)小学校」を設立。日本から教師を招いて日本語で授業を行い、日本とメキシコのかげ橋となる人材育成に取り組みました。

同社が運営する薬局では、貧しい人に毎日3人まで薬品を無料で配布しました。1910年のメキシコ独立100年祭のときに、タパチュラに水道をひき、タパチュラ、アカコヤグア間に橋をかけるなど、地域に多大な貢献をしました。

榎本武揚の殖民計画は失敗に終わりましたが、現在も榎本殖民の名がメキシコで残っているのは、三奥組合と後の日墨協働会社があったからです。

しかし、日墨協働会社の黄金時代は1905年の設立から7年間でした。多方面へ事業を拡大しすぎたため、資金難におちいり、内部対立も表面化して、中心者のひとり、高橋熊太郎が会社を去った後、1920年に解散してしまいました。

「西日辞典」の編さん

榎本殖民団がメキシコへ渡った頃、日本語・スペイン語辞典はありませんでした。そのため、日墨協働会社は日本の研究者に西和辞典の編さんをたびたび要請しましたが、なかなか実現しませんでした。

しびれを切らした照井は、同郷の岩手出身で同志社大学に籍を置いていた村井二郎に西和辞典の編さんを依頼します。

村井は1914年にチアパスに移住し、日墨協働会社の社員となって西和辞典の編さんに取り組み始めました。約4年の歳月

を費やして、収録語数3万語によるローマ字方式の西和辞典の原稿が完成。ところが、完成した時には、会社はメキシコ革命で大きな被害を受けており、辞典を出版できるような状況ではありませんでした。

後に、東京の右文社から2,000部が出版されたのは、編さん作業を始めてから11年後の1925年でした。



1925年に出版された「西日辞典」
(東京外国語大学附属図書館所蔵)

両国友好のかけ橋 日本メキシコ学院

日本メキシコ学院は、1974年9月にメキシコを訪問した田中角栄首相とエチェベリア大統領との首脳会談を受けて、1977年にメキシコシティに設立されました。日本の文部科学省の教育課程に準拠した日本コースと、メキシコ文部省のカリキュラムに基づくメキシココースが併設されている、世界でもめずらしい学校です。

日本コースは小学部と中学部で、日本人子弟150人が在学、日本の義務教育課程とともに、スペイン語やメキシコ国の理解を深める学習を行っています。メキシココースは幼稚園から高等部まであり、日系人を含むメキシコ人子弟が1,000人ほど在学し、授業には、日本語や日本文化学習を取り入れています。

同校では、日本人とメキシコ人の生徒間の交流を重視したカリキュラムが生まれ、音楽祭や文化祭、運動会を共同で実施したり、交流授業や合同クラブ活動を積極的に行ったりしています。

また、清掃活動等を通じて、周りの環境が汚いと犯罪が起きやすく、きれいだと人々の心や生活もよりよくなっていくことを考えさせるなど、メキシコではめずらしい日本の道徳教育が導入されています。



道徳教育として掲げている8つのテーマ

同校は、開校以来、メキシコ国内でレベルの高い学校として広く知られ、多くの優秀な生徒が卒業しています。メキシココースには、子弟を通わせていた大統領や教育大臣もいます。

2012年、メキシコの新聞「レフォルマ」紙に掲載されたメキシコシティの私立高校ランキングで、67校のうち総合1位に輝きました。

日本人メキシコ移住あかね記念館

2016年10月15日、日本人メキシコ移住あかね記念館がメキシコシティにオープンしました。

メキシコの移住資料館建設は、2012年11月の当資料館開館10周年記念シンポジウムにおいて、パンアメリカン日系人協会の春日カルロス名誉会長が発表し、日墨協会設立60周年記念事業の一環として実現したものです。

記念館の名前は、設立に尽力した春日さんの母親、光子さんの歌人としてのペンネーム「あかね」から付けられました。

荻野正蔵館長は、「あかね記念館は移住資料館というよりも、日本とメキシコで活躍した人たちの功績を紹介する場所にしていきたいと思っています。たとえば、メキシコに絵画を学びに来た日本人画家の作品や、メキシコ人が日本で描いた絵画や詩、メキシコに関する日本語の書籍などを収集し、メキシコと日本の交流に関係するものすべてがそろっている館を目指しています。館内につくった談話室は、来館した人たちの交流の場にしたいです」と同館について述べています。



あかね記念館展示室



荻野館長

チアパスのコーヒー、その後

榎本殖民団の挑戦から100年以上を経て、慶應義塾大学環境情報学部の山本純一教授は、チアパス州先住民族支援^{※1}を目的としたマヤビニック^{※2}コーヒーを対象とするプロジェクト(Fair Trade Project)を自らの研究室で始め、先住民生産者組合による「畑からカップまで」の一貫した垂直統合事業(6次産業化)に成功しました。JICA横浜は草の根技術協力(草の根パートナー事業)により、焙煎技術や販売ルートの確立を支援。研究と事業を両立させたこの取り組みは、「フェアトレードビジネスモデルの新しい展開」として注目を集めています。

元青年海外協力隊の杉山世子さん(2006年度マラウィ・短期・村落開発普及員)は、任国で一村一品運動にかかわったのをきっかけに、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスに進学、山本教授に出会い、途上国の貧困構造を解き明かすだけではなく、実践的なプロジェクトまで実施してしまう行動力に衝撃を受け、在学中からこのプロジェクトに参加しました。大学卒業後は自らマヤビニックコーヒーを輸入・販売する「豆乃木」を起業し、オンライン・ショップも展開しています。(http://www.hagukumuhito.net/)

JICA横浜3階のポート・テラス・カフェでは、この「豆乃木」の無農薬マヤビニックコーヒーを販売しています。今回の企画展示とあわせて、ぜひお立ち寄りください。

※1:チアパス州では先住民族による反グローバリズム運動(サパティスタ運動)が起こり、中央政府と対立していましたが、山本教授はこの運動を研究する中で、国内難民となった先住民生産者の窮状を知り、支援を始めました。

※2:マヤビニックとは現地言葉で「マヤの人」という意味です。マヤ系の先住民族が構成する「マヤビニック生産者協同組合」が支援の対象となっています。



ポート・テラス・カフェで販売しているマヤビニックコーヒー



TOPICS

資料館入館50万人を達成!

当資料館は、2002年10月4日の開館以来、8月25日に入館50万人を達成しました。

2015年9月に入館40万人達成から1年11カ月、30万人から40万人まで2年6カ月かかったのに比べ半年以上も早く達成できました。

50万人目の来館者となったのは、夏休みの校外活動で訪れた神奈川学園中学校(横浜市神奈川区)の生徒ら7人です。記念のくす玉を割ると、「祝 海外移住資料館入館者50万人達成」の垂れ幕が現れ、大きな歓声があがりました。

代表して、朝熊由美子館長から50万人記念証明書と記念品を受け取った佐藤岳教諭は、「突然の事で驚きましたが大変光栄です。本校では3年生が3月に海外研修を計画しており、多文化共生社会について考える総合学習の一環で、『どのような時に人は国境を越えて動くのか』をテーマに学習しています。今日は、海外移住の歴史を学ぶために訪問しました。内容がとても充実している資料館ですので、入館者100万人を目指してこれからもがんばってください」とあいさつしました。

生徒たちは、展示案内ボランティアの説明で館内を見学、「資料館を訪問したのは初めてですが、展示や案内ボランティアの説明がとてもわかりやすかったので、移住について理解を深めることができました。この学習を海外研修に活かしていきたいです」と感想を述べていました。



50万人目の来館者となった神奈川学園中学校のみなさんと朝熊館長(右)

海外移住資料館へようこそ!

当資料館で6月24日から9月18日まで開催された写真展「ハワイ日系人の歩み」を見学するため、アメリカから、アイリーン・ヒラノ・イノウエ米日カウンシル会長と天台宗ハワイ開教総長の荒了寛氏が来館されました。

米日カウンシル アイリーン・ヒラノ・イノウエ会長

7月23日、米日カウンシルのアイリーン・ヒラノ・イノウエ会長とローヤン・K・ドイ理事長が来館しました。

イノウエ会長は、故ダニエル・K・イノウエ米上院議員夫人で、全米日系人博物館の初代館長です。

同展実行委員長のバーズ・ヤマシタ氏の説明で展示を見学したイノウエ会長は、「二世ベテランレガシー、日米協会、ハワイ日本文化センターの3団体が協力して、日本でこのような展示会開催が実現したことをとてもうれしく思います。日本のみなさんにハワイ日本人移民の歴史や功績を紹介するいい機会となりました。また、展示の中で、ダニエル・イノウエを紹介していただいたことは大変光栄です」と話しました。



左からドイ副理事長、イノウエ会長、朝熊館長、田中克之海外日系人協会理事長、ヤマシタ委員長

天台宗ハワイ開教総長 荒了寛氏

8月3日には、同展開催に尽力した天台宗の荒了寛ハワイ開教総長が来館しました。

荒開教総長は「40年前、ハワイで開山したばかりの頃、100大隊や442連隊出身の二世が寺を訪問してくれて、戦争中の彼らの体験を話してくれました。他ではなかなか話せないことでも、寺では話せたんでしょうね。話を聞いていくうちに、この歴史を次の世代に伝えていかなければならないと強く感じました。彼らとのご縁が、展示会の実現につながったのでしょうか。彼らが命をかけて差別と戦ったことが、今のハワイ日系社会の礎となっていることを日本のみなさんに紹介したい」と熱く語りました。



展示開催に尽力した荒開教総長

日本人メキシコ移住120周年記念式典を開催

本年5月、榎本植民団が入植したメキシコ・チアパス州で、日本人メキシコ移住120周年を祝う記念式典が開催されました。式典は、メキシコシティからも約50人が出席し、盛大に行われました。

その式典の様子はニッケイ新聞(本社:ブラジル・サンパウロ)が、元株式会社日本国際協力機構(JAIDO)中南米担当専門家の野澤弘司さんの特別寄稿で紹介しています。

ニッケイ新聞の紙面より(原文まま)

(前略) 榎本植民地創立120周年記念式典は、5月18日から3日間、榎本植民団の第一陣が上陸したタパチュラと、さらに北東へ120キロの榎本植民地発祥の地・アカコヤグアに於いて、山田彰駐メキシコ全権大使(当時、8月から駐ブラジル大使に)、武井俊輔外務大臣政務官、JICA所長、日系社会や進出企業の来賓多数が首都や遠隔の地から参会され、現地の皆さんと共に記念祭典一色に包まれ盛大に挙行されました。

1897年、青年移民35人の榎本植民地入植に端を発したメキシコ移民が、艱難辛苦を克服して今日の繁栄に至った足跡については、一昨年ブラジル日本都道府県人会連合会が実施した恒例の移民ふるさと巡りの舞台がメキシコであったため、榎本植民地訪問紀行が当地邦字紙にも克明に掲載されました。(後略)

*友の会メーリングマガジンへの登録申し込み詳細は、資料館ウェブサイトをご覧ください。

海外移住資料館 検索

クリック!



- 開館時間 10:00~18:00(入館は17:30まで)
- 休館日 月曜日(月曜日が祝祭日の場合は翌日)、年末年始(12月29日~1月3日)
- 入館料 無料

■みなとみらい線

「馬車道」駅(4番出口)から徒歩約8分
「みなとみらい」駅(クイーンズスクエア方面改札)から徒歩約15分

■JR線・市営地下鉄

「桜木町」駅から(自動車道→ワールドポーターズ→サークルウォーク)徒歩約15分

アクセス

企画展示関連イベント

公開講座

日墨関係史と日本人移住の意義

●講師: 川路賢一郎氏

(メキシコ移住研究者・元JICAメキシコ事務所長)

11月18日(土) 13:30~15:00
JICA横浜4階 かもめ

入場無料
予約不要